

アクセス access



東急東横線・地下鉄日比谷線
中目黒駅から徒歩7分

東急バス
東京共済病院前から
徒歩3分

JR山手線
恵比寿駅から徒歩10分

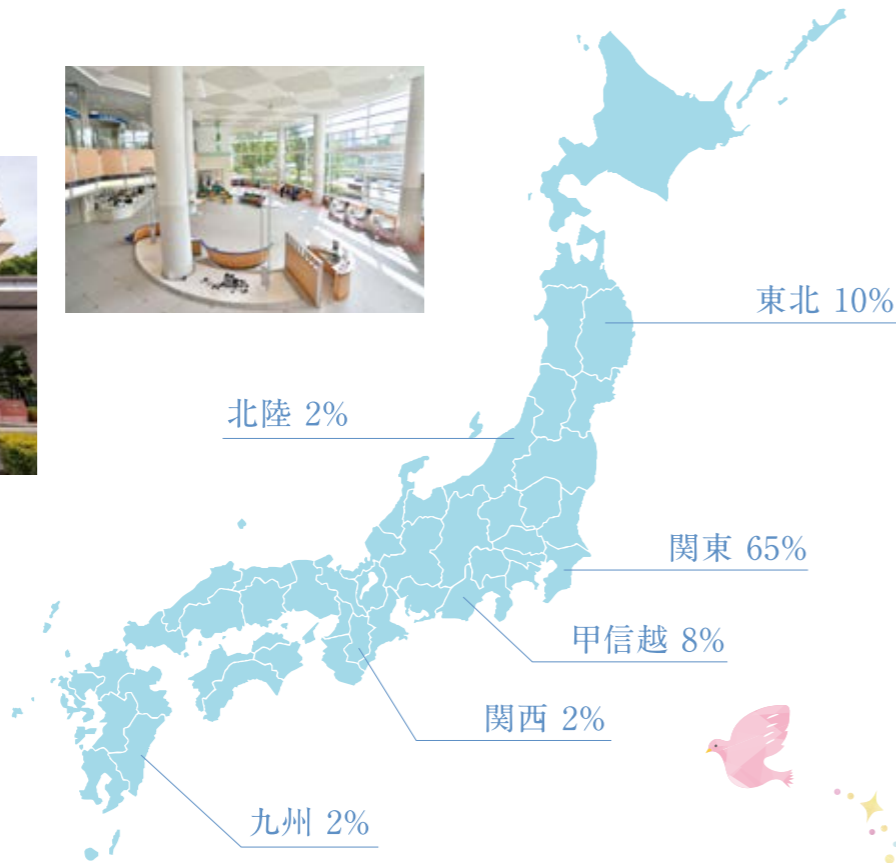
看護部概要 nursing department overview

病床機能	急性期一般病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟、HCU
看護方式	継続受け持ち型固定チームナーシング
勤務時間	週 38.75 時間勤務
勤務交代	2交代 日勤:8:00~16:45 夜勤:16:00~8:30
看護職員数	約 350 名
部署	一般急性期病棟(5単位)、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟、手術室、HCU、外来、血液浄化センター、健康医学センター、訪問看護ステーション、入退院支援センター

病院概要 hospital overview

名称	国家公務員共済組合連合会 東京共済病院
所在地	〒153-8934 東京都目黒区中目黒2丁目3番地8号
開設者	国家公務員共済組合連合会 理事長 松元 崇
開設	昭和5年9月9日
管理者	院長 七里真義

出身地 birthplace



〒153-8934 東京都目黒区中目黒2-3-8 TEL/ 03(3712)3151 FAX/ 03(3793)5582(総務課)



TOKYO KYOSAI HOSPITAL

看護師採用案内 Nurse recruitment information



新たな世界を 見に行こう。

当院で看護師としての経験を重ね、看護の専門性を発揮し、様々な領域へキャリアアップすることができます。

どんな未来が待っているか、思い切って新たな世界への扉を開けてみませんか。



ジェネラリスト generalist

現場に立ち、患者さんに関わり続ける看護師として

ジェネラリストはスペシャリストの知識や技術を生かし、その能力を適切にサポートする存在であり、不可欠な存在であると考えます。現場にいかに対応した方法で看護実践するか・できるかを考え、患者さんや看護師・多職種と積極的にコミュニケーションを図り、時にはリーダーシップを発揮してチーム看護を推進していきます。ジェネラリストも、ある意味ではスペシャリティを発揮していると考え、やりがいを感じます。

私は現場に立ち患者さんに関わり続ける看護師として、常に変化している医療や看護、社会状況に合わせ、日々自己研鑽していくことが「専門職としての責任」であると考えます。また、正しい知識と根拠に基づいた看護技術の提供、患者の意思を尊重し、患者が安心して療養できる環境の提供が「患者中心の質の高い看護を提供すること」だと考えます。私は、そうあり続けたいと思いながら、仲間と日々、患者に 向き合っています。



スペシャリスト specialist



患者さんの「食べたい」に寄り添うようにしています

摂食・嚥下障害看護認定看護師として、患者さんの「食べたい」というニーズに寄り添うようにしています。口から食べるということは、嚥下や窒息など、様々なリスクと隣り合わせになるため患者さんの安全に配慮した食形態や、嚥下訓練の提案をしています。患者さんのニーズはそれぞれ異なるので、その方のニーズを捉えて関わることを大切にしています。病棟スタッフに対しても、自信を持った食事介助や嚥下訓練が実施できるように、技術の指導を行っています。指導したスタッフが、成長している姿を見ると嬉しくなります。

マネジメント management

患者第一の看護が提供できるように

私が主任として日々大切にしているのは、一緒に働いてくれる仲間です。患者さんにより良い看護を提供するためには、いつでも協力し合える風通しの良さが必要だと思っています。お互いを尊重し、認め合える心理的安全性のある環境を作るように心がけています。その中で、主任としてやりがいを感じるのには、スタッフたちの成長を感じられた時です。院内研修や事例検討を通して学びを得たスタッフたちが、驚くほど成長していることを日々の看護を通して実感すると、とても頼もしく嬉しくなります。スタッフ一人一人が看護専門職として責任を持ち、協力し合い、患者さんのための看護が提供できるよう、マネジメント力を磨いていきたいと考えています。



看護部理念 philosophy

専門職としての責任を自覚し、患者中心の質の高い看護を提供します。



自分のなりたい看護師像

患者中心の看護を提供するために、当院の看護師たちは、日々何ができるかを考え、行動することを心がけています。目の前に見えていることはもちろんですが、看護師として成長するにつれて、見えなかったものが見えるようになると実感できるのです。充実した教育体制と、患者さんそれぞれの持つ生活背景や疾患を踏まえた個性のある看護実践が強みです。ほんの少しの勇気をもって、自分のなりたい看護師像に近づけるよう、私たちと一緒に踏み出してみませんか？

看護部長 中川美和

教育体制 education system

～「学び手」に合わせた丁寧な教育が看護観を育み専門職として確実な成長につながる～
一人一人が自らを理解し、自ら学び続ける自律性をもった「学び手」の成長を支援しています。

自部署でリーダーシップを発揮しながら看護ができる

- 看護実践トレーニングコースII
受け持ち看護師として根拠に基づいた看護実践を行い役割発揮することや、チームメンバーを巻き込みながら患者のニーズを叶えることについて、実践とグループワークを通して学ぶ。
- 看護研究II

ラダー III (中堅)

ラダー II (一人前)

自立して個別的な看護ができる

- 看護実践トレーニングコースI
受け持ち看護師の役割とは何かを学び、患者のニーズを捉えるために、自己と向き合いながら、グループワークを通して看護実践を振り返る。

ラダー I (新人)

指導を受けながら安全に業務ができる

- 各種の新人オリエンテーション
- 1, 3, 6, 12か月目フォローアップ研修

新卒看護師オリエンテーション

指導を受けながら基準に基づいた看護ができる

- 2年目看護師研修
・看護過程II ・看護倫理II ・医療経済
・看護研究I ・メンバーシップ ・事例検討
- 新人オリエンテーション～ラダーIレベル共通
・フィジカルアセスメントテスト

学び手の声 career ladder



キャリアラダーを進めていくために、年間を通して多くの研修があります。段階的に受講できるようにスケジュールが組まれている時期もありますが、最終的には個々の取り組み次第となるため、計画的に受講することを意識しています。1年目のうちに、基本的な看護知識であるフィジカルアセスメントテストはすべて受講するようにしました。今は看護実践トレーニングコースIを受講しており、受け持ち看護師としての役割を学び直し、自己の看護観を深められるように取り組んでいます。

教育目標 education system

1. 患者理解に努め、患者の個性に沿った看護ができる。
2. 看護の提供者である自分自身を理解し、研鑽する姿勢をもつ。
3. 組織の一員としての自覚をもち、自分の責任と役割を考えて主体的に行動できる。
4. 医療チームの一員として、互いの能力を最大限発揮できる関係を築き協働できる。

ラダー IV (達人)

患者のQOLを高める創造的な看護ができる

集合研修 group training

①看護実践トレーニングコース

今の自分の課題が何か、自問しながら行動することを意識

入職時は目の前の課題をこなすことに必死で、キャリアラダーのことを考えられませんでした。6年目となり、日々の業務に余裕が出てきたことで今後のことについて考えられるようになりました。目標がなければ、時間が過ぎていくだけで何も得られません。成長するためにも、看護実践トレーニングコースに参加し、自己の課題を明確にしました。課題を克服するためにも、院内の勉強会や講習会には、積極的に参加しています。自分の理想の看護師になれるように努力していきたいと思っています。



②プリセプターフォロー研修

この研修ではそれぞれ担当しているプリセプティ(新人)の進捗状況と、プリセプティへの指導や関わるうえで直面している問題について情報共有をしています。プリセプター同士が悩みを共有し、解決策を検討したり新たな発見があったりと、多くの学びがありました。当院の研修は講義だけではなく、グループメンバーで話し合っただけでいくという研修が多いため、新鮮な学びが得られます。



③手術看護研修

患者さんが安全に安心して手術を受けられるように

手術室看護師として、患者さんが安全に安心して手術を受けられるように、一人一人との関わりを大切にしたい看護ケアを行っています。手術前は、手術や麻酔に対する不安、手術後は退院後の不安など様々な思いを抱えています。手術前には患者さん一人一人にお会いし、患者さんやご家族のお気持ちをお聞きし、少しでも不安が和らぎ手術に臨めるように関わっています。手術中は患者さんの代弁者として、患者さんのニーズや心に寄り添った看護が提供できるように心がけています。当院は多くの診療科があります。手術室研修では配属部署の診療科の手術や麻酔、手術中の看護を見学したり、手術室看護師と一緒に、実際の手術体位を体験することで、手術室～病棟・外来との継続的な看護につながることを学べます。



院外研修 out-of-hospital training

患者さんや家族と一緒に考え、同じ目標に向かっていけるように

私は患者さんが今までどのような人生を送ってきたのか、これからどうなりたいのか、それぞれの患者さんがその人らしく生きていくにはどうしたらよいかを考えて関わることを意識しています。院内研修でも、患者さんのニーズは何かとよく考えましたが、院外研修ではより深く「ニーズ」について考えられたと思います。ニーズを捉えることで、患者さんがどうしてその選択をしたのか、疾患だけではなく、患者さんを全人的に捉えることができました。それぞれ別々に思っていたピースが一つになることで、より明確な介入ができ、自分自身も納得して看護が行えることが楽しみとなりました。

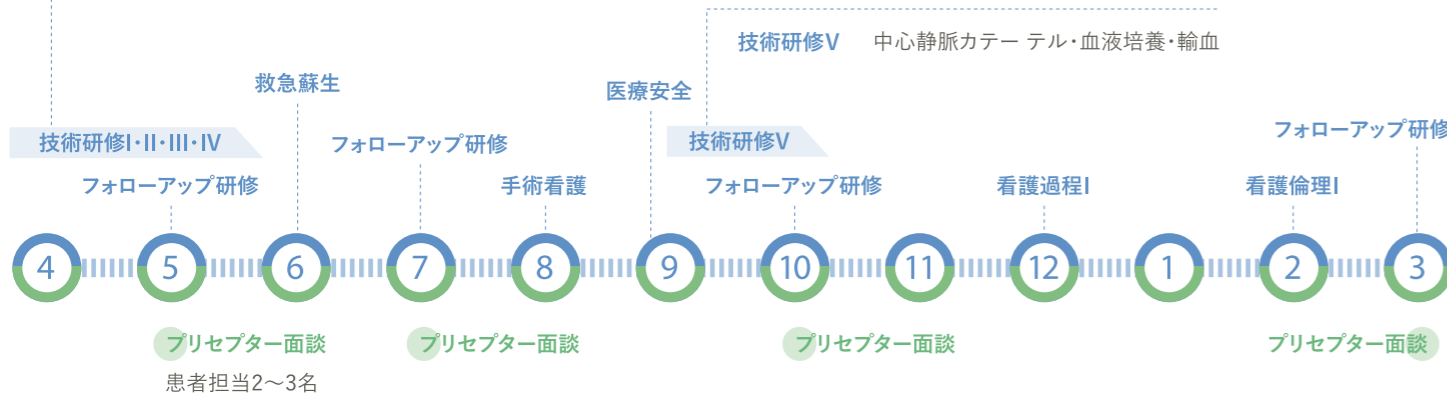


新人看護師 1年のあゆみ | year history

集合教育 Group education

部署教育 Department education

- 技術研修I ポディメカニクス・寝衣交換・おむつ交換・ポジショニング・車いすへの移乗
- 技術研修II バイタルサイン測定・与薬管理・食事介助・口腔ケア・酸素投与・口腔吸引
- 技術研修III 血糖測定・採血・アンプル、バイアルからの薬液吸い上げ・点滴投与・滴下調整
- 技術研修IV 摘便・尿道留置カテーテル挿入・導尿・心電図モニター・輸液ポンプ



- かるがも指導** 後半から患者担当1名スタート
- 夜勤スタート** 先輩看護師と一緒に患者担当をしながら指導を受けます
- 手術患者担当**
- 入院患者担当**

部署ごとに学習支援スタート
部署の診療科の特性を捉える学習会への参加。学習状況をプリセプターと一緒に確認

新人看護師 new nurse



マンツーマンで指導を受けることができます

毎日プリセプターの先輩やフォローの方が付いているので、技術・知識が深まります。困ったときに相談できる先輩がいるので、とても心強く、自分自身の目標になります。私の職場は困っていることやわからないことは聞きやすい雰囲気です。カンファレンスをする際には、活発に意見を出し合い、患者さん一人一人の看護についてスタッフ一丸となって考えています。

プリセプター preceptor

一番近い先輩看護師として不安や悩みを話せるように

当院は新人看護師をプリセプターが一人ずつ担当します。知識・技術だけでなく、メンタルサポートをしながら新人看護師のペースに合わせて、できることを増やしていきます。一番近い先輩看護師として、仕事のこともプライベートなことも話す機会を作ること、不安や悩みを話せる環境づくりを意識しています。そのコミュニケーションの中で、日々学習していることや患者さんとの関わりの中で学んだことを、看護ケアに活かしているか確認を行うこともプリセプターの役割の一つとして大切にしています。

新人教育 New employee education

段階的新人教育ガイドライン(部署教育)と集合研修をリンクさせ、実践につながる学びを

当院の新人看護師教育の特徴は「段階的新人教育ガイドライン」。新人看護師の心理状況を理解して全部署で同じように指導します。また、新人看護師に現場で求められる知識や技術の研修を、その時期に合わせて企画し、集合研修と現場での教育をしっかりリンクさせるようにしています。

じっくり丁寧な3ステップ

確かな「できる」を目指して技術習得を支援します。

- 1 先輩が説明してやってみせる。
- 2 先輩と一緒にやってみる。
- 3 先輩が見守る中、やってみる。

かるがも指導

新人看護師入職後1か月は、先輩看護師について一日の流れや様々な業務、患者さんのケアや関わりなどを見学しながらレクチャーを受けます。一人の先輩看護師に複数名の新人看護師がついて指導を受ける光景から、当院では「かるがも指導」と呼んでいます。

e-ラーニングシステムと看護技術チェック表

学習支援として学研メディカルサポートのe-ラーニングシステムを導入しています。豊富なコース研修や看護技術の確認を、わかりやすい動画付きでいつでも自己学習することができます。このシステムの看護技術手順を一覧表にして、看護技術チェックリストとして新人看護師に配布しています。チェックリストで技術の習得状況を自分で確認して進めていくことができます。

プリセプターシップ

新人の「わからない」をしっかりサポート。3年目くらいの先輩看護師がプリセプターをします。新人看護師が困ったときにすぐ相談できる環境づくりは、患者さんの安全にもつながります。

看護師1日の流れ Flow of a nurse's day

